Global Explorers to Cross Borders
G.ecbo

広島大学　グローバルインターンシッププログラム

NEWSLETTER

海外インターンシッププログラム（G.ecboプログラム）
—10年後の自分を探そう 世界と出会うインターンシップ—

第15号　Vol.8 No.1

2016年3月

目次:

修了生の就職状況	1
世界へ！活躍するOB	2
指導教員から見た参加のメリットとは？	3
特集！“G.ecboと就活”	4-5
2015年度派遣生帰国レポート	6-8
ヒヤリ・ハット・・・!!	9
活動報告	10

活動予定 2016年度前期 /Spring 2016 G.ecbo Schedule

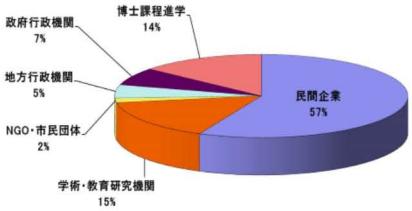
・・・

- ◆4月初旬/Early April: G.ecbo Day(募集説明会)/ G.ecbo Application Guidance
- ◆4月19日/April 19: 応募締切/Application Due
- ◆4月下旬/Late April: 選考及び発表/ Selection & Notification
- ◆5月中旬/Mid May: 事前研修開始/ Commencement of Pre-internship Training
- ◆7月中旬/Mid July: インターンシップ開始/ Departure to internship

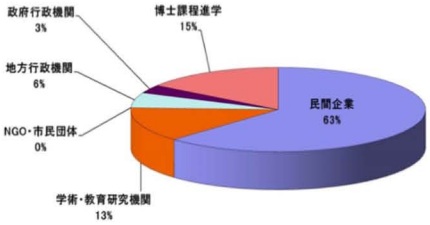
修了生の就職状況

G.ecboプログラムは、約10年の歴史を持ち，その前身であるECBO（工学研専門ECBO）やi-ECBO（国際研専門ECBO）時代を含めると，約300名の修了生を世界へ輩出してきました。また，2007年に全学化され，参加学生の所属も当初の国際協力研究科のみから複数の研究科に広がってきました。

G.ecbo修了生（H24～H26年度）



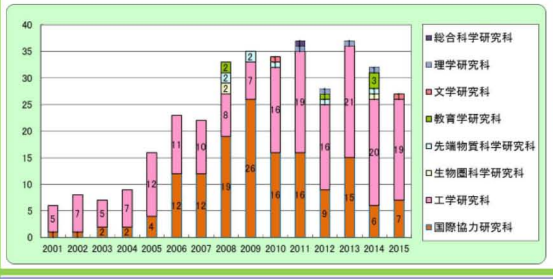
博士課程前期修了生（H24～H26年度）



過去3年間の修了生の進路によると，一般の学生と比べて民間企業に就職する割合が若干低く，政府・地方行政職や学術・教育研究機関にすすむ割合が高めの傾向にあります。また，国際協力を目的として設立されたNGO・市民団体にすすむ者がいることも、特徴的と言えます。

さらに，民間企業に就職する者の中では，商社やコンサルタントが多いことも挙げられます。これは，就活特集にもあるように，本プログラムで得た経験を高く評価されたものと考えられます。

次ページでは，就職して5年以上の経験を積んだ修了生の今を紹介します。



現役学生の就活特集は
4ページへ！！

G.ecbo海外インターンシッププログラムとは？

グローバルインターンシップを核としたサンドウィッチ教育を通して，
既存の学問領域に縛られない多様な分野の課題に適応できる研究者の輩出，国際協力・国際援助の第一線をリードする実務者の養成と，世界中から集まる留学生や研修生の高度専門職業人としての育成を目指します。

世界へ！！活躍するOB

川崎　剛太郎　−外務省国際協力局地球環境課（横浜市国際局から出向）

（ 2007年度　国際協力銀行（JBIC）パリ事務所派遣 ）

国際協力銀行（JBIC）パリ事務所でインターンをさせて頂いてから，はや8年。現在，横浜市国際局から出向し，外交実務研修員として外務省地球環境課で働いています。私の担当は森林と大気。国際会議に出かけていって日本の立場を表明することもあります。「Japan」を主語に話をするなんて，それはもう自分でも未だ信じられないくらいです。

― 経験が活かされた場面・自分に残り根付いているもの

大気環境に関する国際会議
バンコク国連会議センターにて

インターンでは，パリ事務所での資料作成作業から，モロッコの砂漠地帯の学校視察の出張まで経験させて頂きました。丁寧に見やすい資料を作り，分かりやすく説明すること。現場の小道を歩き，その土地に住んでいる方々と話をすること。友人や同僚と楽しく食事することなど，仕事をする上でごく普通なこと，でも大切なことを実体験し，今も実践しようと努めています。ひとつひとつの発見が私自身を構成しているような気がします。周りの方々に感謝してもしきれません！

就職してから７年間を一言で表すと？
“「Trial and error… 」といったところでしょうか。おかげで周りは迷惑しているかも。”

難波　一宏　−北海道大学 国際本部国際連携課

（ 2008年度　ICLEI _ Local Governments for Sustainability（フィリピン）派遣 ）

シャフリサーブスへ向かう途中のチャイハナにて

（高床式の台に絨毯を敷き，低いテーブルでお茶や食事・お喋りを楽しむ，ウズベキスタンの伝統的な社交場）

皆さん，こんにちは。私は2007年10月から2009年9月まで，国際協力研究科開発科学専攻に所属していました。修士課程修了後，NGO，日本国際協力センター，国際協力機構での契約業務を経て，現在北海道大学国際本部で勤務しています。あっという間の6年間でしたが，すべての勤務先での業務に共通することは，周りに教えられ，助けられて今までやってこられたということです。特にウズベキスタンで仕事をしていた時には，現地スタッフを管理する立場にいましたが，最初の時期は指示ができず，申し訳ない気持ちで働いていました。そういう時でもあきらめず，地道に取り組むことが大切であることを，実体験として学ぶことができたと思います。

フィリピン・バギオ・シティ・ホールにて

― 経験が活かされた場面・自分に残り根付いているもの

再び大学に戻って勤務している中で，G.ecboを通して得られたことを日々感じます。特に私の修士課程の研究テーマはフィールド調査をベースにしていましたので，G.ecboでのインターンシップは貴重でした。今は留学制度に関する仕事をしていますので，当時のことを思い出しながら，新しいことに向かって一歩一歩進んでいるところです。

飯山　慶　−豊田通商株式会社 カスタマーサービス部

（ 2009年度　ICLEI _ Local Governments for Sustainability（フィリピン）派遣 ）

就職してからの５年間を一言で表すと？
“「現場主義 」です。”

私は商社に勤めており，日本メーカーの自動車を海外の国々で販売する事業に携わっています。2ヶ月に1度，ザンビアやカンボジアなどの国に出張し，車をより多く販売するために現場が抱える問題を見つけ，改善を行う仕事をしています。

就職してからの5年間を一言で表すと，『現場主義』です。現地の方との信頼関係を築き，問題の真因を見極めて適切な改善策を進めるためには，現場に足を運び，現地の方と直接話すことが欠かせません。

ザンビアの自動車販売店にて

― 経験が活かされた場面・自分に残り根付いているもの

このことは，振り返るとG.ecboの経験が結びついています。当時，フィリピンのゴミ問題の研究のために地方の島に滞在し，役場やNGO，廃棄物処理施設など，様々な場所に足を運びました。その中で感じた，直接自分で見聞きすることの重要性は，現在の仕事においても活かされています。

4月からはインドに駐在することとなっています。今度はさらに現場に根付いた立場で，現場主義を発揮して仕事を進めていこうと思っています。

指導教員からみた参加のメリットとは？

G.ecboプログラムでは，インターン学生指導教員を対象に，インターンシップ修了後アンケートを実施しています。G.ecboインターンシップに学生が参加して得られるメリットや，帰国後の変化・成長について，先生方のご意見をご紹介します。

参加のメリット　～ Advantages of Participating in G.ecbo

◆ **グローバルな視野の醸成。**

◆ 研究へのさらなる**積極性**が認められ，本人の経験としてプラスになっている。

◆ **確実に学生が何らかの点において成長して帰ってくる点**と**修士論文の作成に必要な基礎情報を収集して帰ってくる点**がメリット。

◆ **渡航費を含むインターンシップ経費の援助**が非常にありがたい。

◆ 指導教員の下を一時離れて，海外で共同して働くことの意味は大きい。**現場の経験を積むことで，確実に成長**して帰ってくる。

◆ 途中で現場指導に行くが，他の学生がいないこともあり，**日本では出来ないような深いコミュニケーション**が取れる。

◆ 専門家の仕事を身近に見ることで，仕事内容や能力を知ることは，本学生が修了後の**進路を考える上で非常に有益。**

◆ 受入機関（研究者・担当者）との，**渡航前の調査計画立案の交渉や現地での調査を極めてスムーズに行うことができる。**

帰国後の変化・伸びた部分
～ Changes and developed aspects after completion of internship

◆ 明らかに学生の視野が広がった。

◆ 研究活動のみでなく語学能力や，協調性にも十分な成長が見られました。

◆ 現地ではなんとか自分で対処しようと努力するために，**課題発見能力や問題解決能力に向上**が見られた。

◆ 他の研究者とのコミュニケーションを通じて，**コミュニケーションの大事さを認識**してくれたように思う。

学生に期待すること ～ What master students should do in order to succeed in developing the prerequisites for internship

◆ 大学院での研究活動や現場での研修活動において，**情報・知識・技能は与えてもらうのではなくて，自分で獲得するものだという認識。**マインドセットを変える必要がある。

◆ 分野にも依るが，英語に接する機会は以前ほど多いので，研究活動を通じて英語に接する機会を意図的に増やすこと，それから**最も大事なことは普段から教員に頼らずに自ら動いて課題を発見，または取り組む，さらには別の教員とも議論をする機会を作ること。**基本的に広大で出来ないことは海外でもできないと思うので，普段からの取り組みが重要である。

◆ 研究成果を論理的にまとめること，それを専門外の方にも分かるように表現方法を工夫することというのは，かなり重要であるが，学生がそのようなプロセスを軽んじて見ている感じを受けた。一般的に研究そのものに時間を割いて，それをまとめるための時間を割かない傾向にあるので，その意識を変えるのが重要。

特集！”G.ecbo”と“就活” Part 1

池田 正太（生物圏科学研究科 環境循環制御学専攻 ）
–コンチネンタル・オートモーティブ株式会社・技術系総合職　内定

1） G.ecboインターンシップ

G.ecbo派遣先：フィリピン，シリマン大学・海洋研究所 （2014年 7月～ 8月）

ー 参加目的

フィリピンの海洋保護区政策の効果と現状を知ること，修士論文に関連する生物のサンプル収集，実験や解析手法の共有と議論を通じて両国の水産研究に貢献することです。これらに加えて，個人的に海外で働くことに興味がありG.ecboに応募しました。

ー 調査内容

現地では目的となる生物の調査・採捕の許可を得るために市役所や水産漁業資源局を訪れ，実施計画をプレゼンして回りました。G.ecboで事前にプレゼン研修を行なっていたため，少し気持ちに余裕があったと記憶しています。許可が下りた後，研究所のメンバーとともに昼は海に出てフィールド調査を行い，夜はビールを飲みながら研究の議論を重ねました。限られた時間と慣れない環境の中で成果を挙げるために，失敗を恐れず自主的に行動するよう心がけていました。

ー 印象に残っていること

調査を行うにあたって市長をはじめ市役所の方々や地元住民と接し，その誰もが海洋保護区政策を知っていたことに驚きました。フィリピン人の陽気で親切な性格に加え，多くの方々が水産について興味を持っていたからこそ，スムーズに調査や研究を行う事ができたのだと思っています。

2） 就職活動とG.ecboインターンシップ

ー この企業・業界を選んだ理由

自動車業界は近年における「自動運転技術」の流れが急速に強まったように，ビジネス環境の変化が多く，グローバル化の進んだ業界です。その中でコンチネンタルを選んだ理由は，理系としての素養が活かせる技術職として採用して下さり，日本でも国際色豊かなチームで仕事ができ，海外にも行けるチャンスの多い会社だからです。

ー 自己PRで差別化。「周りを巻き込んで」行うG.ecboインターンシップ

就職活動では研究やインターンシップで海外へ行く理系学生が少ないこともあり，自己PRなどで差別化できたと思います。また，G.ecboでは海外に行き「周りを巻き込み」ながら調査などの計画から実施まで行う必要があります。多くの企業がこの「周りを巻き込む」人を求める人物像に掲げているので，就職活動で役立つ経験になると思います。

ー 今後の目標

今後は周囲から信頼される技術者を目指し，英語のスキルアップに努めていきます。

3） 就職活動アドバイス

就職活動中に企業選びで迷ってしまった，そんな時は「働き方」を考えながら企業を見ていくのも良いと思います。同じ業界でも企業によって働き方が異なる場合があります。ちなみに私は漠然としていた「海外で働きたい」という気持ちが，G.ecboをきっかけに明確になりました。自分の将来像を思い描く上で，G.ecboの経験は非常に有意義だと思うので，是非挑戦してみてください。

特集！”G.ecbo”と“就活” Part 2

新居 大記（先端物質科学研究科 量子物質科学専攻 ）
–株式会社デンソー 内定

1） G.ecboインターンシップと就職活動

G.ecbo派遣先：オーストラリア・グリフィス大学 （2014年 7月～ 8月）

― 参加目的・調査内容

研究（量子現象の特性と測定結果の関係性の理論解析）の進展と，英語コミュニケーション能力の向上のため

― 印象に残っていること

指導してくださっていたMichael A. Hall先生が投稿した論文が，留学中に日本でもニュースになったこと。発表は「量子力学の不思議な物理現象が，我々の住む世界とは別の多世界からの干渉によって説明できる」という，とてもワクワクする内容だった。投稿したMichael A. Hall先生が1対1でその研究について説明をしてくれて，論文の真意は何なのかということをお聞きすることができた。夢のようだった。

― この企業・業界を選んだ理由

研究活動に対し人・もの・金があると思ったことと，若い研究者に積極的な研究活動を求めること 。

― 今後の目標

人に寄り添っていて尚且つ自分がワクワクするような未来技術の研究がしたい。

2） G.ecboが就活にもたらすメリット＆アドバイス

まず就活生は，自分しか経験していないことをエピソードとして準備し他の就活生と差別化を図り，その経験から自分はこういう魅力のある人間ですと伝える必要があります。留学という実績によるメリットは技術系（いわゆる，理系就職）と事務系（いわゆる，文系就職）で大きく違ってくると思います。
理系は実験を持っている人が多く，指導教官の積極的な勧めがない限り，なかなか留学の機会は得られません。よって理系就活者には留学した人が少なく，逆に他の就活生に対し差別化が図れます。一方，文系は語学留学者が多く，それほど大きな差別化は図れないとよく聞きます。

― G.ecboは理系文系関係なく，差別化可能！

このG.ecboも理系にのみ有利に働くのか，というとそうではないと思います。文系就職者に多いのは，語学留学や国際交流を主体とした留学ですが，G.ecboでは現地で語学力以外の目的意識を持って調査や研究をします。そこで理系文系関係なく他と差別化出来ます。

― G.ecboを披露するエピソードの軸にして就活すると，自身のアピールポイントに幅ができる

例えば，“現地の人との実務＝「英語＋コミュニケーション能力がある」”，“行った活動を詳しく説明できる＝「しっかり困難な仕事に取り組んだ」”等々。企業によって求める人物像は異なりますが，アピールポイントを柔軟に構成できるのはG.ecbo経験者の強みになります。
「私は素晴らしい人間です。」と主張するだけでは不十分で，その証拠を自身の経験から来るエピソードとして，「課題→対策行動→その結果」という三段建てで裏付ける必要があります。コンピテンシー面接と呼ばれる，エピソードで嘘がつきにくい面接を行う面接官もいます。実際，G.ecbo活動中の英語での調査・研究は課題や問題には必ずぶち当たるような環境なので，そういったエピソードを嘘なく準備しやすくなります。

これから就活を迎える皆様，世の中を動かす企業達が何を考えているのかを知る大チャンスなのでぜひそういった好奇心を持って頑張ってください。

2015年度　帰国レポート / Internship Report

武内　康佳　　Yasuka TAKEUCHI（文学研究科）

Host	インドネシア教育大学 （インドネシア）
Period	2015年 8月 24日－9月 18日
Objectives	日本語を専攻しているインドネシア教育大学の学生に，自分の専門分野の授業を行う。日本語母語話者として言語だけではない文化・歴史・文学を紹介する。

インドネシア教育大学の教員として，日本語教育学科における授業の実習，またはサポートを行った。担当したのは「実用会話」であり，4年生が履修する授業である。「日本について，言語だけではない，文学研究科の学生としてインドネシアの学生に伝えたい文化・文学・歴史など」を盛り込むよう指示を受け，「敬語からみえる日本の文化」と題し，敬語表現についての授業を行った。また，専門である言語学の下位分野「語用論入門」の授業でも講義を行った。

インドネシアでは日本語教師の需要が高いということを，実際に日本語を勉強している学生たちの前で授業を行うことで感じることができた。専門分野に関しても，言語学的な研究を行うための音声サンプルを採集することができた。音声学・音韻論的に分析をして，インドネシア人日本語学習者がより簡単に日本語を学ぶことができるような方法を見つけるために，今後研究をすすめることができるようになった。

インドネシア語の能力を高めなければ，生徒や先生とのより深い意思疎通は難しい。コミュニケーションをとる際，インドネシア語を使いすぎてしまっては，せっかくネイティブスピーカーとして実習しているのにその意義がなくなってしまう。しかし，日本語を使いすぎて，学生が理解できなくなってしまうような事態は避けなければならない。最低限のインドネシア語能力をもち，授業することが今後の課題である。

田中　陽大　　Yodai TANAKA（国際協力研究科）

Host	グラミン銀行 （バングラデシュ）
Period	2015年 9月 6日－9月 24日
Objectives	ーグラミン銀行が貧困削減にどれほど貢献しているか，経済的な指標で測れないマイクロファイナンスの効果の調査。 ー家畜保健の効果や加入動機についての調査。

実際に滞在して分かったことは，グラミン銀行の提供するマイクロファイナンスが貧困度を低下させる効果は大きくなく，それを利用するだけでは，ほとんどの人々の貧困は続いてしまうということだ。しかし，もう一つ明らかになったことは，農村の人々（特に女性）は，マイクロファイナンスを利用する過程でビジネスに挑戦し，様々な決断を下す機会を得る事で大きな生きがいを感じているということであった。

私がバングラデシュの農村で見たものは，生活水準の高くない現状を，ビジネスを通して変えていこうと努力を続けるたくさんの女性たちの姿であった。それは，研修に参加する前に抱いていた「男性中心社会」という印象を覆すものであったし，経済的な指標で測れないマイクロファイナンスの効果を身に染みて感じた経験であった。

郭　琦　　Guo QI（国際協力研究科）

Host	グラミン銀行 （バングラデシュ）
Period	2015年 9月 6日－10月 2日
Objectives	To obtain research data about “How microcredit and micro health insurance influence people’s life”.

Two points interest me. One is Grameen Bank is a bottom-up institution, the other is it is consists of borrowers. People said, Grameen Bank is not at head office, it is at villages. We went to a distant village, located in 50 km from Dhaka, namely Kusura Dhamrai. Through attending village’s center meeting, I got to know the main income source of borrowers. Disease and aging problem make women easily tracked in poverty. This happened to one borrower who is using beggar loan.

To get information concerned to my research, I visited Grameen Kalyan. This is an organization which provide basic healthcare and exercise. The target people is low income people. With a health insurance system, they could get medicine at ten percent discount.

In Bangladesh, people are enthusiastic to communicate with foreigners. I usually have been asked the motherland and the name of my school. As an international student, I need introduce myself properly to make it be well understood. I found that, in the third country, on behalf of coming from China and studying in Japan means more. I valued the international chance, and knew well I have the responsibility to try study in my research.

International corporation is not only a slogan, for me it is a real work.

2015年度　帰国レポート / Internship　Report

佐々木　徹　　Toru　SASAKI（国際協力研究科）

Host	ネパール環境局 –Alternative Energy Promotion Center （ネパール）
Period	2015年 9月 4日－10月 4日
Objectives	マイクロハイドロデータベースの作成と電化村における村人の利他性に関する調査

マイクロハイドロ導入村と非導入村を1村ずつ計2村を訪問し，およそ60世帯に対して調査を行った。村での調査内容は2つあり，1つは各家庭を訪問し持参したクエッショネアに答えてもらう調査，もう1つは村人を集めて実験を行い，利他性を測定するものであった。今回は特に子持ちの家庭に注目し，親と子を別々に集めて同様の実験をし，親子の間では実験結果がどのような関連性を持っているかを測定した。

朝10時にカトマンズを出発し，バスと徒歩で目的の村に到着したのは18時過ぎだった。村にはホテルがないため，村人の家に泊めてもらいながら調査を進めた。日中は調査に出て，夜は村人の家で，彼らの生活や文化・日本との違いなどについて話をし，彼らと生活を共にすることで，途上国の山岳地帯の村の生活をそのまま味わうという，大変貴重な経験もできた。村での調査を終え，首都カトマンズへ帰還した時，現地通訳なしで言葉が通じること，温かいシャワー，電気，インターネット，日常生活へのありがたみを痛いほど感じた。

このインターンシップを終えて，改めて，『国際協力とは何か，その中で自分のできることは何なのか』を，改めて考えさせられた。自分の研究のためだけでなく，今後の将来を考えていく上で大きな経験となったと思う。

阿部　誠司　　Seiji　ABE（国際協力研究科）

Host	マレーシア工科大学スルタンイスカンダー研究所 （マレーシア）
Period	2015年 8月 16日－10月 29日
Objectives	– 自然換気条件の変化が室内熱環境へ及ぼす影響，境界壁に取り付ける外壁断熱による影響について検証。 – 断熱材周りの温湿度測定により，結露発生の有無を確認。

実測調査だけでなく，実験住宅の建設途中の段階から参加させてもらったが，そこから工期を守ることの重要さを身に染みて感じた。私は将来，建設現場の施工管理を職にして働きたいと考えているため，納期に遅れるということが後の予定にどれほど大きな影響を与えるのか身をもって知ることができた。また，現場で働く人たちとわずかな時間ではあったが同じ仕事をともにし，実際に完成した場に立ち会うことができたおかげで，何かやりがいの様なものを感じることができた。これらの点は将来に活かしていきたいと思う。

また，研修の核となっていた実測の方であるが，全体的にスケジュールの組み立てが不十分であったと感じた。出発前から建設が遅れ気味であることを耳にしてはいたものの，それに対する対策が不十分のまま，現地に乗り込んでしまったため，不測の事態に迅速に対処できず，その場その場で決断して作業を進めていくことが多かった。様々なケースを予測して対策を考えることができなかったことが今回の大きな反省点であり，今後の課題である。

研究以外にもこのインターンシップで得ることのできた経験はたくさんあった。その中でも個人的にはやはり，言語に対する学習欲をとても強く感じた。また海外に来ることがあれば，より積極的に現地の方々と交流できればと思う。今後は研修で得られたデータの分析を進め，より深い内容の研究をしていく予定である。

大橋　誠　　Makoto OHASHI（国際協力研究科）

Host	マレーシア工科大学スルタンイスカンダー研究所 （マレーシア）
Period	2015年 8月 16日－10月 29日
Objectives	マレーシア工科大学内に建てられた実験住宅を用いた室内熱環境実測と実験住宅外壁への断熱材施工工事

このインターンシップを通して，マレーシアでの実験住宅を用いた室内熱環境実測という貴重な機会を経験することができただけでなく，実験住宅の建設過程も目の前で見て学ぶことができた。これら二つを経験するには，おそらく今年のこのタイミングでのインターンシップでなければ不可能だったであろう。基本的には大学内で活動していたため，英語を使って生活することができたが，大学からでると英語を流暢に話す人は少なく，英語かマレー語の単語でのコミュニケーションを取らざるを得ない状況が多かった。そうした経験から，また，現地生活の円滑化，考え方や文化等をよりよく理解するためにも，英語だけでなくマレー語の能力も向上させたいと感じた。

このインターンシップは「海外で働く」という，貴重な経験を自分に提供してくれたと思う。また，この経験は自分の将来をイメージしやすくさせてくれた。今回のインターンシップ全体を振り返ると，自身の研究，さらなる語学学習への意欲，将来設計全てにおいて，有意義なものであったと思う。

2015年度　帰国レポート / Internship Report

松井　駿　　Hayao MATSUI（国際協力研究科）

Host	FORWARD Nepal （ネパール）
Period	2015年 9月 4日－10月 4日
Objectives	Leasehold forestという森林資源利用者に焦点をあて，実験ゲームという手法を用いて，人々の持つ社会的選好と，天然共有資源に対する行動の関係性を明らかにする。

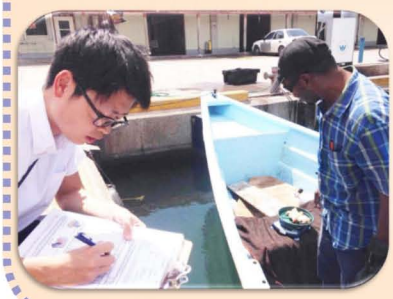
私の調査方法は2つからなる。1つ目は実験ゲームであり，実際の現金を使用して人々の選好を測るものだ。もう1つは家計調査であり，これは各家庭を訪問し，家計状況を尋ねる方法だ。

1つ目の実験ゲームは特に調査を遂行するのが難しく，苦労したと同時に今後の研究のためにとてもよい経験が出来たと考えている。日本でもプレ調査を行い，何度も遂行を重ねて望んだのにも関わらず，村人の予期しない行動の数々や文字が読めない人々等に直面し、実際に実施してみて，自分の考えの甘さを思い知らされた。

2つ目の家計調査は実験ゲームに比べては比較的やりやすい調査であったが，それでもネパール調査員とのミスコミュニケーションから上手くいかない状況が多々あり，調査を成功させるためには，調査員との意思疎通がとても大事であることを実感した。これに関して，試行錯誤しながら毎回違うアプローチで試みた。結果，上手くコミュニケーションをとれたとはあまり思わないが，こういった経験は日本にいては絶対に出来ないことであり，今回途上国の現地に赴き，調査員と協力して実際に現地調査できたことは本当に有意義で，貴重な経験であった。

FORWARDのスタッフからいただいたコメントの中で最も印象に残ったのは，「この研究が実際の人々の生活状況を改善するために，どのように役立つのか」ということであった。この時，私の研究はやや理論的で実践から離れたものになりかけていたかもしれない，とハッとさせられた。FORWARDの方々は農村に赴いて仕事をしており，実際に貧しい人々にとって本当に役立つ研究を求めている。今後の研究活動において，私はこのことを忘れずに研究活動をしてゆかなければならないと感じた。

Latest News！　アンティグア・バーブーダ（JICAインターンシップ・ドミニカ共和国事務所 ）で活躍中です！



「カリブ地域における漁民と行政の共同による漁業管理プロジェクト」の一員として，主にFAD（集魚装置）の社会経済調査に携わっています。漁民へのインタビュー調査を通して，FADの経済的効果を算出することを目的としています。
インタビュー調査で上手く情報を引き出すことは簡単ではありませんが，活動にあたってG.ecboプログラムで行ったフィールドワークの経験がとても役立っています。
このインターンは，日本の開発援助の現場を間近で見ることのできる非常に貴重な機会なので，たくさん学んで日本に帰って来ます。同時に，現地で会う様々な人との交流を通して，将来の自身のキャリアについても考えてゆきたいです。

インターンシップ関連の修士論文

本プログラム参加者のうち以下の4名が，インターンシップの成果のもとに修士論文をまとめました。

2016.3修了	生物圏科学研究科 池田　正太	Genetic diversity of zooxanthellae in tridacnid clams ≪シャコガイ類に共生する褐虫藻の遺伝的多様性 ≫
2016.3修了	国際協力研究科 井出　翔太郎	A Comparative Study of English Medium School in Tamir Nadu, India: The Use of Bourdieu's Reproductive Theory ≪インド，タミル・ナードゥ州におけるEnglish Medium School についての比較研究 ー社会的再生産理論との関連からー≫
2016.3修了	理学研究科 出口　健太	A comparison of ore minerals from the Letnye, Molodezhnoe and Djusina volcanogenic massive sulfide deposits in the South Urals, Russia ≪ロシア南部ウラル地域に胚胎する Letnye, Molodezhnoe, Djusina 火山性塊状硫化物鉱床に産する鉱石鉱物の比較≫
2016.3修了	国際協力研究科 早樋　崇宏	Effect of Microfinance Based on Observational Data from Revisited Bangladesh Household Survey

G.ecboヒヤリ・ハット…!

途上国への渡航は，いつも危険と隣り合わせです。天災に人災に状況は様々ですが，適切なリスク管理ができるよう，万全の準備をしてインターンシップに臨みましょう。

☑ 体調管理　Health care, etc.

✧ CASE　1

起床後すぐに腹痛に見舞われた。ホテルで安静にしていたが症状は次第に悪化し，下痢嘔吐，発熱等の症状が出てきた。保険会社に連絡して病院を紹介してもらい，治療を受けたところ，**食中毒**と診断された。

➤ **原因**：店で買って食べたリンゴが原因と思われる。

➤ **対策**：食べ物（特に生の食べ物）には細心の注意を払う。食べる前に新鮮かどうか，生ではないかどうか等，店員などに確認したほうが良い。

✧ CASE　2

実習中に出された食べ物にはすべて手を付けていた。しかし初めての土地で勧められた食べものでお腹の調子を崩し，熱が出て，早退することになってしまった。滞在後半は好物でも辛いものを控えなくてはならなくなってしまった。

➤ **原因**：屋台で食べた辛いソースが原因だったと思われる。衛生環境が良くなかったため，運悪く保存状態の悪いソースを使用してしまいお腹を壊した。

対策：辛いものが好きでもいきなり辛い物を食べず，

➤ 少しずつ慣らしていくこと。日本から胃腸用の薬を持参すること。多少の不調は薬で対応可能。

☑ 文化・宗教上の注意　Cultural and religious aspects

✧ CASE

週末に寺を見学しようとしたが，現地の他の参拝者達から中に入ることを厳しく止められた。少し英語で対応をしたが，険悪な雰囲気になり怖くなったため，見学を諦めた。

➤ **原因**：現地では，特に服装面において女性に対する制限があることは分かっていたが，寺に入る際も，厳しい制限があることを事前に知らなかった。

➤ **対策**：渡航前に，その国の文化・宗教に関して学び，宗教施設でも気を付けておく必要があった。

☑ 気候，自然災害　Climate, Natural Disasters, etc.

✧ CASE

市内を観光していたところ急に大雨が降ってきた。日本では体験しない程の大雨（=スコール）で，**道路が完全に冠水**したのだが，私はCNG（*Compressed Natural Gas* :圧縮天然ガス）と呼ばれる車で移動中であったため，1時間以上，車外へ出ることが出来なくなった。

➤ **対策**：天気予報を逐一チェックするのはもちろんだが，夕方以降は宿泊施設から遠いところに行かない方が良い。夕方に冠水すると，帰宅ラッシュにも重なってホテルまで移動するのが困難になる。日本だったら15分程度で移動できる距離も，冠水時であれば2時間以上かかることがある。

☑ 政治・治安　Government, Security, etc.

✧ CASE

政府の憲法制定による周囲の環境の変化。隣国がこれに反対し，抗議としてガソリンや調理用ガスの輸出を停止したため，生活状況が一変した。**ガソリン不足**のために停電時に発電機を使用できなかったり，調理用ガスの不足によりレストランを利用できないといった不便があった。また，国内での燃料不足により，飛行機が帰国前日に突如変更になり，スケジュール変更を余儀なくされた。さらに，政府に対する不満を持った人々の**デモ行進**も街中で見かけるようになり，いつ治安情勢が急変してもおかしくないと考えられる状況であった。

➤ **対策**：政治状況については日ごろから情報を得ておくことで，事態の急変に対処しやすくなるものだと思う。私は外務省の「たびレジ」というサービスに登録していたのだが，ストライキの予告に関する情報は逐一そこから入ってきた。また，事態が急変した際には，現地の頼れる人に従って行動するのがよい。

G.ecbo/i-ECBOプログラムでは，派遣学生の英語コミュニケーション能力とプレゼンテーション能力の向上を目的として，PPT研修を派遣前に計3回，帰国後に1回行っています。

辰己明子（Akiko TATSUMI）
大学院教育学研究科　博士課程後期　英語文化教育学

I as an RA have been working in the G.ecbo/i-ECBO program. Interns had wonderful opportunities to deepen their research professionally and their understandings of different cultures. Additionally, in this program, they could specify their research topic and learn how to present your research in English before they left for their host institution.

Attending last year's presentation sessions as an RA, I was really excited to listen to interns' presentations. Through their presentations, I could learn about their research in various areas and experiences in their host countries. Interestingly, I could see the processes of how they changed through this internship program. Most importantly, all interns could acquire knowledge of different cultures such as the religions and the customs, and polish your English through this program.

The G.ecbo/i-ECBO Internship Program provides students great opportunities to expand their possibilities in the future.

山内　優佳（Yuka YAMAUCHI）
大学院教育学研究科　博士課程後期　英語文化教育学

G.ecboプログラムのTA/RAを担当させていただいて，今年度で4年目となりました。

主な業務は，事前および事後のプレゼンテーション研修において，インターン参加者が作成したスライドを事前に確認するというものです。また，プログラムに関連した講義等で，ディベートの練習やケーススタディの取り組みのお手伝いをさせていただく機会もありました。これらの研修や講義，そして実際のインターンを通じて，参加者の皆さんが（大学院という多忙な生活のなかで，必死に）準備や練習を積み重ねていく様子，また，自信と満足感を得ていく様子を陰ながら応援できるのが，このTA/RAのお仕事の醍醐味だと感じております。

参加者の研究テーマは，私自身の専門とかけ離れていることがほとんどですので，プレゼンテーションの内容は新鮮で，私たちTA/RAにとっても，刺激的な研修の機会になっています。

2016年度G.ecbo海外インターンシップの募集は4月から開始します！
派遣先等の詳細はHPでご覧ください。

G.ecbo will call for 2016 participation in April! Go to our website for the list of intern locations and further details.

2015年度活動報告

4月9日	G.ecbo Day(募集説明会)
4月21日	海外インターンシップ応募締切り
4月28, 30日	選考面接
5月11日	合同留学体験報告会（発表者：上田裕太さん）
5月19日	英語プレゼンテーションガイダンス
6月1日－6月4日	第1回英語プレゼンテーション研修
6月22日	海外渡航リスク管理セミナー
6月25日－6月29日	第2回英語プレゼンテーション研修
7月27日，7月28日	第3回英語プレゼンテーション研修
8月中旬	夏期インターンシップ生派遣開始
9月29日	平成27年度第1回 G.ecboプログラム運営委員会
10月20日	遡上教育型インターンシップ応募締切り
10月30日	選考面接
	合同留学体験報告会（発表者：武内康佳さん）
11月17日，20日	帰国報告会
1月19日	遡上教育型インターンシップ派遣前英語プレゼンテーション
2月1日	遡上インターンシップ生派遣開始
2月18日	研究助成金等成果報告会
3月2日	平成27年度第2回 G.ecboプログラム運営委員会

事務局編集後記

今回このNewsletterを編集するにあたり，G.ecboのキャッチコピー「10年後の自分を探そう 世界と出会うインターンシップ」が目に留まりました。参加当時は気づかなかったけれども，振り返ってみると自分に影響を与えていることなどを，就職して5年以上のOB，これから就職するG.ecbo生，そしてインターンシップを終えたばかりの学生に問いかけてみました。経験は必ずプラスになりますが，捉え方生かし方次第で何倍にも膨らますことができる。修了生の活躍を知り，改めて気づかされました。G.ecboは一つの経験に過ぎません。どこで生かせるかは人それぞれです。G.ecboが形成されてもうすぐ10年になります。修了生は10年後，20年後にどんな姿を見せてくれるのでしょうか。（G.ecbo事務局）

広島大学 学生プラザ
グローバルキャリアデザインセンター内
G.ecboプログラム事務局
Email: gecbo@hiroshima-u.ac.jp
http://www.hiroshima-u.ac.jp/gecbo/index.html